

小松電機産業

小松電機産業（本社）松江市、小松昭夫社長）は、独自開発の『やくも水神ネットワークシステム』向け計画停電対応管理端末『マノホールポンプ制御盤用長時間停電対応管理端末SA201E-TB』の開発を完了したと発表した。この端末は、長時間の停電を繰り返す場合でも、監視を継続することで、溢水事故など

間、6時間の停電に対応するもの。東日本大震災に伴う計画停電対策として活用が期待される。

用。24時間の遠隔監視・操作が可能で、水位異常や機器故障などの緊急時には、携帯等にメールで警報を知らせる仕組み。現場データの運用管理は、東西2カ所（同社本社、ドコモ代々木ビル）のデータセンターで行っている。

しているもの、計画停電では数時間に及ぶ長期停電も実施されており、電源切れによりマンホールポンプも実施され、下同士の中継が機能せず、下水溢水など不具合が予想される。

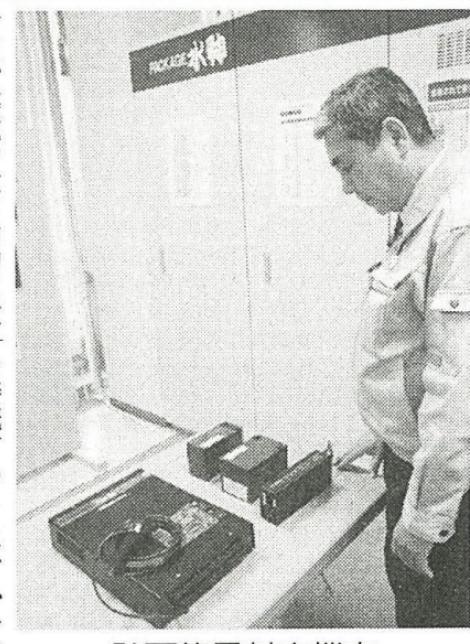
けで、停電中は自動的に大容量バッテリーに切り替わり、3時間以上（別バッテリー6時間以上）の継続監視が可能となる。フロート接続可能なOMA網を通じて自治体に送信。自治体はパソコンで遠隔監視しながら、発電機

を接続することなく、マンホール内の水位情報を長時間収集できる。任意の水位に通報レベルを設定し携帯電話へ通報、水位を確認しながらバキュームカーを効率的に配車することで、事故を未然防止する。

また 新潟県中越地震で  
被災した小千谷市では、「や  
くも水神」を20カ所に納入  
していた。被災により下水  
供用が停止するなか、マン  
ホール上に設置した仮設トイ  
レの満水情報監視で活躍  
した。バキュームカー運転  
手に携帯メールで仮設トイ  
レ貯留情報を通知し、効率  
的な汚水収集に貢献した。

やくも水神ネ  
ツトワーク用

M P 監視で溢水防止



不端心對電停電計劃

本大震災に伴う計画停電対策を実施。遠隔操作機能により庁舎でマンホールポンプ槽内水位を監視しながら圧送操作を行い、停電前に流入量の多い施設を中心へ、槽内汚水を圧送し空にしておくことで、3時間程度の停電に対応している。